

第44回学研労協代表者会議 メッセージ紹介



茨城県自治体問題研究所

理事長 田中 重博 様

学研労協第44回代表者会議の開催にあたり、連帯と激励のメッセージを送ります。

筑波研究学園都市地区の研究機関並びに大学等の労働組合が結集し、労働条件や研究環境の改善を目指して、日々奮闘されておられます貴協議会に、心から敬意を表します。

当研究所は、地域・自治体問題の調査、研究、学習、交流活動を通じて、民主的自治の発展に寄与することを目的に活動を続けて、今年で創立48年を迎えます。

貴協議会及び関係各位の積極的な活動とご支援に、あらためて感謝申し上げます。

さて、岸田自公政権は安倍・菅政治を引き継ぎ、憲法改悪、軍事大国化、原発推進、新自由主義などの政策を推進しています。そして9月27日には、国民多数の反対を押し切り、憲法違反の「安倍国葬」を強行しました。

しかし一方では、統一教会と自民党の底知れない癒着の露呈、物価高騰と新型コロナ対策への無策、格差と貧困の拡大などにより岸田政権の支持率が急落し、政治の潮目は確実に変わりつつあります。

今こそ、労働組合、民主団体、立憲野党などは、広範な国民と連携を強め、岸田内閣退陣、希望のある新しい政治の実現をめざして全力を尽くすべき時ではないでしょうか。

こうした状況の下で、貴協議会及び各労働組合と当研究所との共同、連携を一層深めていくことを心から期待しています。

第44回代表者会議が活発な討論の中で大きな成功をおさめますよう、心からご祈念申し上げ、連帯のメッセージといたします。ともに頑張りましょう。

2022年10月20日

石岡市職員労働組合

執行委員長 富田 悠介 様

第44回代表者会議の開催、おめでとうございます。

貴会の日頃の活動に対し、心より敬意を表します。

今会議が団結をいっそう強化し、前進の場となることをご祈念申し上げます。ともに、頑張りましょう。

日本国家公務員労働組合連合会

中央執行委員長 九後 健治 様

筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会第44回代表者会議の開催おめでとうございます。貴組織の日頃からのご奮闘に敬意を表します。あわせて、私たち国公労連の活動に対する日頃のご支援・ご協力に心から感謝を申し上げます。

7月10日の参議院選挙では、自民・公明の与党勢力が改選議席の過半数を上回る議席を確保し、補完政党を加えた改憲勢力が衆・参両院で3分の2以上を占める結果となりました。この選挙結果を受けて岸田首相は、改憲発議にむけたとりくみを早期にすすめることをいち早く表明しておりますが、改憲と大軍拡を許すのか、それとも憲法9条をいかす外交で世界平和をめざすのかをめぐる対決は激しさを増しており、改憲阻止のとりくみを国民共同の力でいっそう強めていかなければなりません。また、現政権は、多くの国民が反対している安倍元首相の「国葬」を閣議決定で強行しようとしています。国会を軽視し、数の力を背景とする強権的かつ反動的な現政権の策動を許さず、沖縄辺野古新基地建設や核兵器の廃絶、労働法制改悪阻止、社会保障制度の拡充、ジェンダー平等の推進など国民的課題の実現をめざし、国民との共同と連帯を強化したとりくみを広げていきましょう。

この間の公務・公共サービス拡充を求める国会請願署名では、回数を重ねるごとに紹介議員が増え、わたしたちの運動に理解と共感を示す与党議員も増えてきました。しかし、感染症の拡大や相次ぐ自然災害への対応など、真に必要な人員増には至っていません。他方、安倍元首相の死により真相解明が遠のく森友・加計・桜を見る会問題をはじめ、政府統計不正処理や職員によるコロナ給付金詐欺、旧統一教会との癒着が疑われている国会議員の閣僚等への任命問題など、行政の在り方が厳しく問われる事態も生じています。

国公労連は、公正で民主的な公務員制度の確立と国民本位の行財政・司法の実現をめざすと同時に、誰もが個人として尊重され、人間らしく安心して暮らすことができる平和な社会の実現のため、広範な国民と共同して全国の職場と地域からおおいに奮闘していく決意です。

貴会議が成功を収められることを祈念し、連帯のメッセージとします。

2022年10月20日

茨城県高等学校教職員組合

執行委員長 蓮田 斉 様

筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会 第44回代表者会議に際し、貴協議会と会員

の皆様へ激励と連帯のメッセージを送ります。

時事通信が実施した10月の世論調査で、岸田内閣の支持率は、政権発足後最低だった前月と比べ4.9ポイント減り27.4%となりました。

不支持率は前月比3.0ポイント増の43.0%となっています。2カ月連続で不支持が支持を上回り、その差は前回の7.7ポイントから15.6ポイントに拡大しています。旧統一教会と自民党の関係、安倍晋三元首相の国葬実施、物価高騰などをめぐり、国民の根強い批判が背景にあるとみられています。

こうした政策が続いても、私たち労働者の生活が改善される見込みはありません。私たちには、組合員の生活を守る取り組みを通して、労働者全体の地位向上を目指すという大きな役割が求められています。

今回の代表者会議も実り多きものになることを願い、併せて、貴協議会の益々のご発展と、皆様のご多幸をご祈念申し上げ、連帯のメッセージとさせていただきます。

2022年10月吉日

2022年10月5日

茨城県労働組合総連

議長 白井 勝巳 様

筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会第44回代表者会議の開催を祝し、貴組織と組合員の皆様へ連帯と激励のメッセージを送ります。

ロシアのウクライナ侵略が7ヶ月を越えて続いています。全く終息の見通しが立っていません。世界中からの「戦争やめろ」の声を無視して、プーチン大統領は街の破壊、民間人の虐殺をやめようとしていません。

そして何よりも問題なのは、ロシアの侵略戦争を悪用して核共有や敵基地攻撃能力などを主張し、岸田内閣が軍事費のGDP比2%増額を狙っていることです。

茨城労連は、9月24日に第34回定期大会をオンラインで開催しましたが、軍事費の増額ではなく、最低賃金全国一律1500円の実現のための中小企業支援や看護師・介護士等ケア労働者の賃上げ、福祉や教育、年金等の国民生活支援にこそ税金を使うべきだという点から討論を深め、決議をあげました。

こうした中で、労働者の要求実現するための政治勢力を拡大する運動に取り組むことが重要になってきています。労働者の要求を実現するために、「選挙に行って政治を変えよう」の運動を強化していく必要があります。7月の参議院選挙の総括を行いながら、市民と野党の共闘の意義を再確認していく必要があります。茨城では12月に県議選が

あり、東海第二原発の再稼働反対と労働者の要求実現が争点になっています。

最後になりましたが、筑波研究学園都市研究機関労働組合協議会の代表者会議が参加者の皆様の積極的な報告や討論で成功されることを心より祈念いたします。

全国一般茨城地本 美浦トレセン美駒労働組合

執行委員長 磯部 和人 様

第44期代表者会議の開催を心よりお慶び申し上げますとともに、日頃からの皆様のご活躍、ご奮闘に心から敬意と連帯を申し上げます。

今年もコロナ問題が続いている中で、更にロシアがウクライナへ侵攻するという暴挙が起こり、世界情勢が混乱し日本にも大きな影響を及ぼしています。最低賃金の全国加重平均額が前年度に比べて31円増加したとはいえ、資源高や極端な円安方向によって起こった急激な物価高騰は、コロナ禍で疲弊した経済の中で生きている我々国民にとって死活問題となっています。このような重大な局面にもかかわらず、岸田政権は効果のある政策を何も示すこともできず、それどころか多くの国民が求めている憲法改悪、軍事費の増額、原発の再稼働、新設を推し進めようとしています。また、政教分離の原則に反しカルト教団である統一教会との癒着問題など悪性の限りをつくしています。このような政権を断絶糾弾して国民の暮らしと平和を取り戻す闘いを、皆が一体となって取り組むためにも労働者の代弁者たる労働組合の役割が非常に重要になってきます。憲法を守り平和と国民主体の民主主義を作り上げ、労働者の生活と権利を守る闘いに勝利するまで共にがんばりましょう。

新日本婦人の会つくば支部

支部長 横井 美喜代 様

第44回代表者会議のご盛会おめでとうございます。

私たち、新日本婦人の会は10月19日、創立60年を迎えます。平塚らいてう、いわさきちひろなど32人が呼び掛け、「胸にたぎる同じ願いに声をあわせ、力をあわせ、みなさん一つになりましょう！」と産声をあげました。

つくば支部は学研労協より4カ月前に5つの班が一つになり筑波学園支部として活動を始めました。並木高校増設、水道料金値上げ反対、平和運動など住みよい平和なまちづくりを進めるため、いつも共同で行動を進めてまいりました。

今、私たちが一番力を入れていることは、「つくば市やTX沿線に、全日制県立高校を早急に設置すること、及び、進学環境の充実を求める請願」署名運動です。「この数

年、高校入るのが大変、高校作ってほしい」の切実な要望が寄せられていました。2021年度の高校入試では市内の県立高校に6人に一人しか入れていない事、中学卒業生が2021年から2030年の10年で1000人増えることが県の新推計で明らかになりました。これらの数字は県議会で行くば選出の県議の皆さんの一般質問などでも確認されています。つくば市、つくば市議会、県議の皆さん、市民の多くの皆さんと力を合わせて、未来の子どもたちに「誰一人取り残さない社会 持続可能な社会」を「県立高校の早急設置」で作っていきたいと思います。

署名は10月31日に、県議会へ提出する予定です。ぜひとも、署名運動にご協力ください。お力を貸してください。よろしくお願い申し上げます。

ご一緒に連帯して頑張ってください。

貴学研労協の益々のご発展をお祈り申し上げます。

新しいつくばを創る市民の会

代表 山本 千秋 様

学研労協第44回代表者会議の開催を心からお祝い申し上げます。

貴協議会が、加入する組合員の労働条件や研究環境の改善を大切にしつつ、学園都市や県南地域の住民・諸団体と協力し、住みやすい街づくりや平和と民主主義を守るとり組みにおいて指導的役割を果たされていることに、心からの敬意と連帯の挨拶を送ります。

私たち「新しいつくばを創る市民の会」は、公正な市政が推進されることを願い、市民の目線で行くば市政をウオッチするとともに、市民の暮らしや福祉を守る市民運動を行っています。同時に、諸団体・会派と共同して憲法と平和・民主主義を暮らしの中に活かす活動にも参加しています。

この間取り組んできた主な活動としては、つくばセンタービルの改修問題があります。つくば市は、駅周辺のにぎわいを取り戻すためとしてセンタービルの大幅改変計画を提案しました。しかし、世界的な建築家磯崎新氏の設計によって建設されたセンタービルの文化財としての価値が失われる、と市民団体が専門的な立場から問題点を指摘しました。その結果、計画は抜本的に見直され、センタービルの歴史的・文化的な輪郭と価値は保存されることになりました。

また、「安倍9条改憲NO!市民アクションつくば連絡会」や「戦争する国づくりNO@つくば実行委員会」に参加して、毎月3日と19日の駅頭でのスタンディングやチラシ配布、地域署名、講演会の開催など、改憲と戦争に反対する諸活動を行っています。さらに、東海第二原発の再稼働に反対する3・11集会にも取り組んでいます。

学研労協の皆さんは、研究機関の基盤的経費である運営費交付金が削減され、雇用継続のめどが立たず研究者の大量雇い止めに追い込まれるなど、脆弱な研究環境の下で日本の科学技術力が衰退することに心を痛めつつ、研究・労働条件の改善を目指す任務で、ねばり強く活動を継続されています。

つくば市および県南地域の労働運動と市民運動で、学研労協が果たしているかけがえない役割に重ねて敬意を表しますとともに、私ども市民運動団体との協力・共同をいっそう発展させていただくことを切に願い、「市民の会」からの連帯のあいさつといたします。

2022年10月20日